

将来ビジョン (仮) 『活発に交流し、価値を創り合う持続可能なまち』

4つの柱 (方針) (仮)

歴史的資源を活かし、 顔の見える 未来のコミュニティづくり	健康増進・環境配慮につながる みんなが歩きたくなる まちづくり	エリア価値を高める エネルギーを生み・かしこく 使うまちづくり	だれもが公共交通で移動でき、 次世代の乗り物で移動が わくわくするまちづくり
-------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	--

昨年度の検討、SWOT分析より事務局で4つの方針整理

コミュニティ	ウェルネス	エネルギー	モビリティ
<ol style="list-style-type: none">大谷・小鹿の人々の良さ（性格、伝統）が最大限発揮され、それを発信し新たなまちづくりに活かす。地域に情報・人・モノの交流場所(地域のヘソ)を作り、顔の見えるつながりが新たな価値を生み出す。大谷・小鹿の人的・歴史的資源を活かし、新たに入ってくる人々との未来のコミュニティを創り出す。魅力ある地域のポテンシャルを活かした安全・安心なまちづくりへの多様な人の連携づくり。	<ol style="list-style-type: none">みんなが歩きたくなるまちトコトコ大谷歩けば、防災×健康×SDGs（環境）	<ol style="list-style-type: none">地域でエネルギーを生み出し使うことを可視化したり、アピールすることによるエリアブランディング・高速道路からの視認性（広告価値）エコに暮らせる・移動できるまち災害時にも安心して活動できる「エリアで守る」コンパクトなまち（身近な防災×生活拠点）	<ol style="list-style-type: none">SICを活かしたまちづくり、次世代モビリティの導入乗り換え拠点の利便性向上（公共交通の利便性強化）、公共交通の再編・強化高齢者も利用しやすいモビリティ導入

それぞれの施策 (自分事に考える・何が出来る)

本日のワークショップの議論

コミュニティ	ウェルネス	エネルギー	モビリティ
施策1：〇〇！	施策1：〇〇！！	施策1：〇〇！！	施策1：〇〇！！
施策2：〇〇をやる！！	施策2：〇〇をやる！！	施策2：〇〇をやる！！	施策2：〇〇をやる！！

本日のワークショップについて

タイムスケジュール



時間	スケジュール	所要時間	内容
14:00	開会の挨拶	5分	
	これまでの振り返り	15分	
	本日のWS流れの説明	5分	
14:25	WSスタート	おおよそ60分	
	個人で考えよう！	30分	実現するためのアイデアだし A4用紙を個人で作成 →ポストイットに「なにを・どこに」を記入する。
	グループで共有しよう！	15分	各テーブルで白地図ベースにポストイットを張付けながら、皆さんの意見をグループ内で共有する。
	発表 みんなで共有しよう！	10分 5分×2班	テーブルごとに発表を行う
15:25	今後について	5分	
15:30	閉会の挨拶		

未来像を実現するために何が出来るか考えよう！

- ✓2グループを設定します。
- ✓コミュニティまたは、ウェルネスの柱（方針）を実現するために、下記A4用紙コミュニティとウェルネスについて、各自ご記入ください。
- ✓何が出来るか、何がしたいか、「自分ごと」としてお考え下さい。

A4用紙



健康増進・環境配慮につながるみんなが
歩きたくなるまちづくり

グループ
1

なにを

『なにを』『どこで』が主な意見ポイント

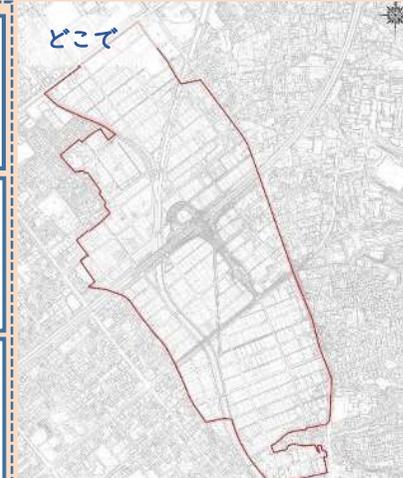
いつ

『いつ』は可能な範囲でご意見をください

だれが

『だれが』も可能な範囲でご意見を下さい。

どこで

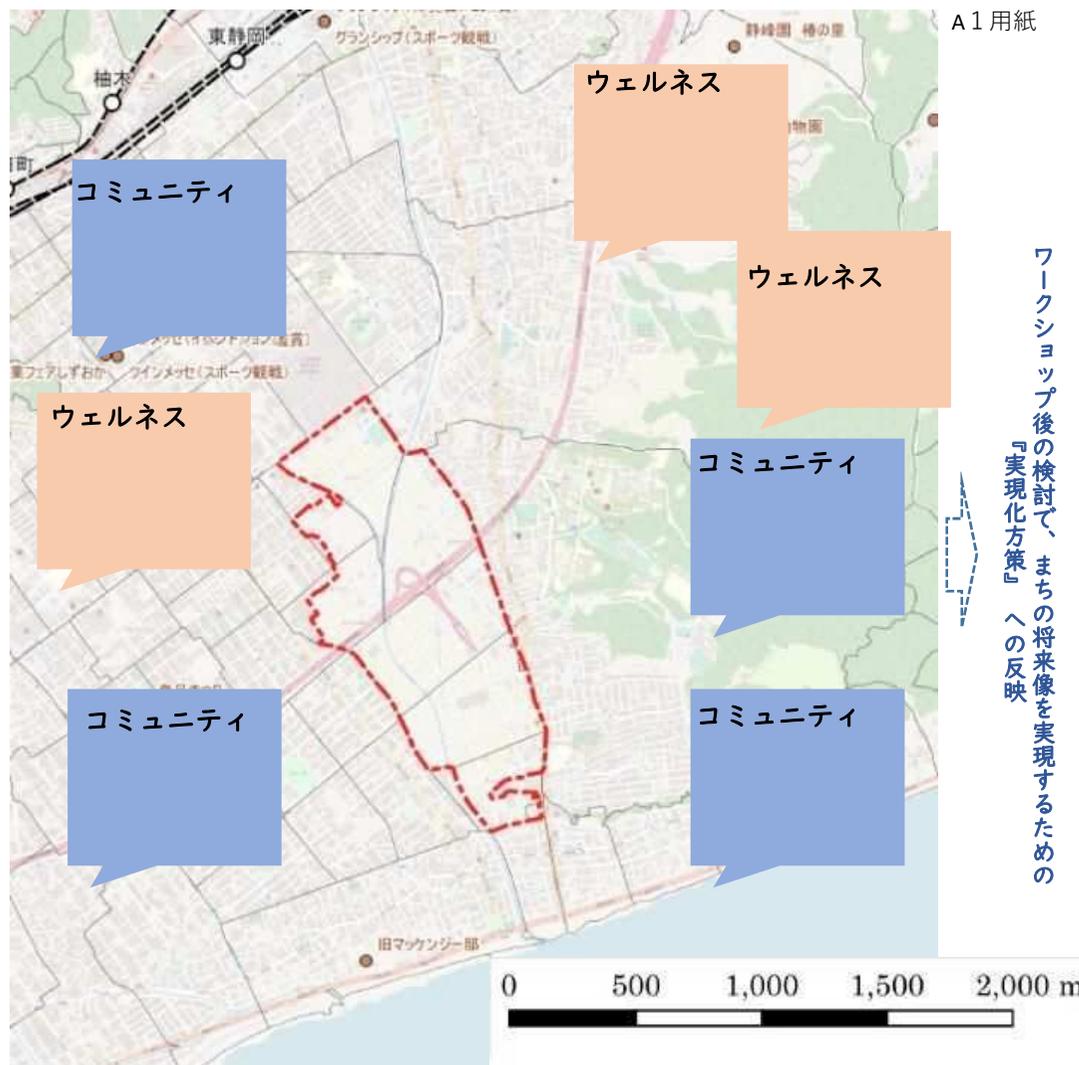


本日のワークショップについて

テーブルワークでのイメージ

みんなで共有しよう！

コミュニティとウェルネスについて、それぞれの付箋で、「なにを・どこで」を発表します。



		大谷・小鹿地区の強み・弱み(内部環境)	
		Strength(強み)	Weakness(弱み)
		【S×O:積極方針】	【W×O:改善方針・弱点強化】
社会的な課題・機会(外部環境)	Opportunity(機会)	<p>(地区の強みを活かして機会を最大限に利用するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※一番のコンセプト・アピールポイント</p> <p>01 大谷・小鹿の人々の良さ(性格、伝統)が最大限発揮され、それを発信し新たなまちづくりに活かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農・歴史を未来につなぐ多世代交流まちづくり ・農・歴史の魅力をさらに磨いて新たなまちづくりに活かす ・高速道路沿いの看板・掲示板設置 ・公園を使用したマルシェ・イベントの開催 ・歩きたくなるまちにする →自然豊かな景観、商店街、観光地、大きな公園、ウォーキングルートの設定やスタンプラリーなどがあると楽しい ・世代間交流が盛んなまち、しやすいまち(公園やスポーツ施設を充実) ・農・ビニールハウスを観光資源に! ・学校ぐるみで“農”資源に触れる機会を作る ・静大農学部、サークル等の連携 ・通学する学生が学校の外に目を向ける ・歴史・行事につながるクイズゲームを大谷小巻き込んで行う ・S4×O1 地区の歴史のアーカイブ化 地球環境史との連携 ・S4×O3×O4 ビニールハウスを用いたイベントの開催 ・S4×O4 農・稲に特化した遊具 	<p>(弱みによって機会を逃さないために、補完・改善を行うには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※地域の弱点の解決に向けて適用できる一般的な手法・取組</p> <p>02 地域に情報・人・モノの交流場所(地域のヘソ)を作り、顔の見えるつながりが新たな価値を生み出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特徴を活かし注目度のある新しいコミュニティづくり ・ヘソづくり→触れ合える、知り合える場の創出 ・昔から地元コミュニティが強い。周辺も含めてまとめるための「ヘソ」共同スペースが必要(現在は場所を借りている) ・交流の中心地 ・組み合わせる 幼×老 自治会×大学生。小学生 地元の方×他から来た人 学校×住民×地域資源 ・農業だけではない大谷・小鹿の自然に触れられる、知って貰える機会を作る ・地域に情報・人の交流場所を作り、顔の見えるつながりをつくる ・伝統文化を学生と一緒に作る(紹介することから始める) ・空も人流・物流に活用できる街 ・W1×O1 ドローンの基地局
	Threat(脅威)	<p>(強みを活かして脅威を回避するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※社会的な課題解決に向けて地区独自でできること</p> <p>03 大谷・小鹿の人的・歴史的資源を活かし、新たに入ってくる人々との未来のコミュニティを創り出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生が住み続けられるまち ・住民の知る機会、参加する機会の増加。歴史・地形・店を活かす ・大谷・小鹿情報誌 →若者子供も読めるフリーペーパーの発行 ・大谷・小鹿地区のお店を回るスタンプラリー ・オリジナル道しるべ、看板 ・幼老複合施設をつくる ・野外ワークショップ →感染対策 自然の中の体験 ・企業インターン 大学生向け(県外から来た大学生がそのまま住む) 	<p>(想定される最悪の事態を回避するためには、何をすべきか) ※最悪の状況回避のための予防策</p> <p>04 魅力ある地域のポテンシャルを活かした安全・安心なまちづくりへの多様な人の連携づくり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供は増えている。と同時に高齢化も進行 →子供と高齢者の新たな組織づくり ・人口減少、高齢化などで人が孤立化が進まないよう日頃からのつながりづくり ・治安に対する対策。 →夜でも歩ける場所、明るい場所 ・防災イベントで 大学生×自治会の連携 ・W4×T1 南地区は徹底的に閑静な住宅地に

		大谷・小鹿地区の強み・弱み(内部環境)	
		Strength(強み)	Weakness(弱み)
		【S×O:積極方針】	【W×O:改善方針・弱点強化】
社会的な課題・機会(外部環境)	Opportunity(機会)	(地区の強みを活かして機会を最大限に利用するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※一番のコンセプト・アピールポイント 01 SICを活かしたまちづくり、次世代モビリティの導入 <ul style="list-style-type: none"> ・SICからの来訪者をターゲットとした拠点整備(みちの駅など) ・インターの利用、新ETC、ETC2への対応 ・高速道路ETCによる一時退出、再進入 ・インターの利用 ・次世代モビリティの導入実験(自動運転等) ・道路整備×自動運転で、試運転・実験、EVステーション設置など ・バス路線の拠点化を進めるBRT,高速バスの導入 ・歩行者や自転車にとっての利便性を多くする ・バスの利用を多くする ・歩行者や自転車に優しい道路環境を整備 ・「車が無くても生活しやすい街」のアピールをして若い夫婦の子育てを助ける ・周辺の観光資源との周遊交通の充実 ・脱炭素先行地域の推進モデル地区となり、太陽光発電にて得た電力を活用したEVステーションをつくり、市内のMaaS推進基地となり得る ・中心部との距離があり交通手段も乏しいので、東静岡駅を取り込んだ交通システムの構築。あえて静岡駅周辺と距離を置く 	(弱みによって機会を逃さないために、補完・改善を行うには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※地域の弱点の解決に向けて適用できる一般的な手法・取組 02 乗り換え拠点の利便性向上(公共交通の利便性強化)、公共交通の再編・強化 <ul style="list-style-type: none"> ・駅が遠いなら自転車利用(若い人は)パルクルの場所と台数増加 ・駐輪場の設置。観光客の呼び込み ・地区内を周遊するバス等の導入により、自動車への依存度を下げる(買い物、病院等) ・バス再編・公共交通の強化 ・観光客を根付かせるためのMaaSの開発。 →オクシズ、匠宿、日本平、清水など、ソフト(演劇、イベント、飲食店)を絡めたモビリティ ・市内人口増加が認められる唯一の大谷地区だが、高齢化も進んでいる。 →相乗りタクシーに近い乗り物の導入(坂の多い地区での足、買い物に利用) ・歩行者が安全に歩ける道路整備(車・自転車の飛び出しに対応) ・交番の設置(交通網が激しいため・大谷地域のため)
		Threat(脅威)	(強みを活かして脅威を回避するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※社会的な課題解決に向けて地区独自でできること 03 高齢者も利用しやすいモビリティ導入 <ul style="list-style-type: none"> ・デマンド交通の導入 ・自動運転バス、オンデマンドによる高齢者、観光客へのサービス向上 ・高齢者が利用しやすい交通サービスの導入 ・新たな道路整備による、安全対策の実施。高齢者の安全対策 ・歩道を広げて高齢者になるべく自分で移動できる道路整備 ・移動の安全性、脱炭素社会に向けた取組(EV車、バス、コミュニティバス等) ・上記の新たな取組みにより、県外から企業を呼び込み人口減少に歯止めをかける(上記とはS×Oにある、脱炭素先行地域推進モデル地区~ のこと) ・災害に強いインフラ整備→道路の無電柱化・橋
	【S×T:差別化方針】		【W×T:影響低減・防衛】

参考) まちづくりの方針、課題の整理 (4つの視点)

ウェルネス・方針

		大谷・小鹿地区の強み・弱み(内部環境)	
		Strength(強み)	Weakness(弱み)
社会的な課題・機会(外部環境)	Opportunity(機会)	<p>【S×O:積極方針】</p> <p>(地区の強みを活かして機会を最大限に利用するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※一番のコンセプト・アピールポイント</p> <p>01 みんなが歩きたくなるまちトコトコ大谷</p> <p>①歩ける環境をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> 調整池を周回するウォーキングコースを作る 競輪場を活かしたスポーツイベントの開催 東名まわり 暗い 危ない→歩く走るコースの整備 自動車を減らし歩道を作り歩きやすい空間を作る <p>②歩きたくなる仕組みを作る</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康ポイントの導入 プロギングといったゴミ拾いしながらウォーキング、ランニングを行うイベント実施 →脱炭素社会の実現に向けてゴミの有効活用やリサイクル等 健幸アンバサダーで健康意識を高める ウォーキングの促進→「歩く人」が「街」や「高齢者」を見守る機能となる <p>③魅力的な場所を作る(歩く目的を創る)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人が集まる仕組みや空間を作る 地区資源などの活用(無人販売巡りマップ・田んぼアート・食文化(いちご、葱、生姜)等) スケールメリットを活かして「歩く」機会を増やす →健幸ポイント獲得 大谷・小鹿地区内の富士山ビューポイントの設定。歩いてビューポイントを回る <p>④多世代が交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康イベントに静大の学生にも活躍してもらって活性 子育て2世代を助ける高齢者と子供が交流するまち 静大生(若者)、子供、高齢者のつながり、お互いが見守られるまち 	<p>【W×O:改善方針・弱点強化】</p> <p>(弱みによって機会を逃さないために、補完・改善を行うには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※地域の弱点の解決に向けて適用できる一般的な手法・取組</p> <p>02 (会議の場では言及なし)</p>
	Threat(脅威)	<p>【S×T:差別化方針】</p> <p>(強みを活かして脅威を回避するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※社会的な課題解決に向けて地区独自でできること</p> <p>03 (会議の場では言及なし)</p>	<p>【W×T:影響低減・防衛】</p> <p>(想定される最悪の事態を回避するには、何をすべきか) ※最悪の状況回避のための予防策</p> <p>04 歩けば、防災×健康×SDGs(環境)</p> <p>①防災とセットで歩く意識を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ハザードマップとウォーキングマップを掛け合わせる。防災意識を高める →3分でどこまで歩けるか?津波が来るまで →歩数を増やすのは難しい。坂を利用。運動強度を高める。 →高台への逃げる準備、高台を活かす →避難所の代わりとなるように高台の建設(軽い公園の設置)、子供たちの日常使い <p>②歩ける環境を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者が外出しやすい歩道整備と見守りをする 歩道を整備する 公園を活用した防災対策×健康づくりを進める 目的、楽しみのあるウォーキングマップを作り歩く環境を作る <p>③自転車利用も便利にする</p> <ul style="list-style-type: none"> 車道と歩道に加えて自転車専用道路を!(緑化を上手にする) <p>③公共交通を便利にする</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通網を充実させて歩いてもらう バス停周辺の快適な環境設備 高齢者→バス停まで歩いて待っている間が大変 バス停に日よけベンチ掲示物(お散歩マップ等)

参考) まちづくりの方針、課題の整理 (4つの視点)

エネルギー・方針

		大谷・小鹿地区の強み・弱み(内部環境)	
		Strength(強み)	Weakness(弱み)
		【S×O:積極方針】	【W×O:改善方針・弱点強化】
社会的な課題・機会(外部環境)	Opportunity(機会)	<p>(地区の強みを活かして機会を最大限に利用するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※一番のコンセプト・アピールポイント</p> <p>01 地域でエネルギーを産み出し使うことを可視化したり、アピールすることによるエリアブランディング・高速道路からの視認性 (広告価値)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに作れるエコなまち エネルギーのつながり ・宣伝価値ブランディング ・企業・住民(高齢者、子育て)へのそれぞれ付加価値 ・PPA事業(太陽光発電) ・太陽光エネルギーの標準化、使用 ・地域で電力を融通しあうエネルギーマネジメントシステムの導入 ・EMS等を導入してエネルギーの効率利用を行う <ul style="list-style-type: none"> →新たな整備を進める地域 →国からの支援なども得やすい。需給予測、エリア間融通、自動制御など ・エネルギーの見える化を行う <ul style="list-style-type: none"> →使用状況を見ることは省エネ行動にもつながる →PDCAによる持続的改善。ナッジ ・クリーンエネルギーとのベストミックス EMS等の活用 ・農地、緑地と連携したバイオマス発電 ・農地、河川、緑地を活用した気温平準化 ・補助を受けて早期の整備エネルギー施設整備 ・三菱さんの工場でアニマルパス(動物の通り道) ・公園や緑があって子供を育てやすい環境の創出 ・生態系の回復 ・土地の造成、インフラ整備から開発する →この地区でしか実施できないアクションがある ・電気自動車 充電ステーションの設置 ・産業、商業、住宅、農地が整理されて立地 <ul style="list-style-type: none"> →一体でつなげるアクション ex.発電、蓄電、省エネ、各やりやすさ 	<p>(弱みによって機会を逃さないために、補完・改善を行うには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※地域の弱点の解決に向けて適用できる一般的な手法・取組</p> <p>02 エコに暮らせる・移動できるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未開発エリアを想定した需要計画・送電網 ・電気バス巡回。交通不便の対策 ・V2H V2Bなど 電気自動車と施設のエネルギーのやり取り ・交通拠点、ターミナル、充電 ・EVバスの充電ステーション・一般車の充電ステーション・クリーンエネルギー <ul style="list-style-type: none"> EMSによる一体整備 ・エコ活動のポイントとインセンティブ付与 ・駐車場への案内 ・飲食店喫茶店、レストラン等の集いの場所
	Threat(脅威)	<p>(強みを活かして脅威を回避するためには、どのようなまちづくりの方針がふさわしいか) ※社会的な課題解決に向けて地区独自でできること</p> <p>03 災害時にも安心して活動できる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害後の必要電力の把握。蓄電量とその施設 ・BCPも考慮したEMS等の導入 ・ライフラインの整備。ガス、水道、下水 ・災害後の必要電力の把握。蓄電量とその施設 ・新規施設の屋根を活用した電力創出による電力の自給自足 ・電力の分配。電気料金増への対策 ・地域内での電力使用(マイクログリッド) ・地域で創出したエネルギーの備蓄(防災) 非常時電源の確保 ・河川水位情報の発信 	<p>(想定される最悪の事態を回避するためには、何をすべきか) ※最悪の状況回避のための予防策</p> <p>04 「エリアで守る」コンパクトなまち(身近な防災×生活拠点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EVによるコミュニティバスの導入 ・防災拠点の構築 ・防災拠点、未利用農地から大街区化された地区の活用 ・高齢者の見守りネットワーク ・拠点あり「エリアで守る」 ・コンパクトなまちづくり。すぐ逃げられる。移動距離小さい ・防災施設の周りに必要な施設をコンパクトにまとめる ・マインド 醸成 学習 機械 ・宅配BOXの設置 ・節電行動のイベント化(楽しく節電する) ・高速道路SICすぐの物流の拠点の整備